

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

| | | | |
|-----|---------|------------|------------|
| 地域名 | 構成市町村等名 | 計画期間 | 事業実施期間 |
| 横瀬町 | 横瀬町 | 平成 26～30 年 | 平成 26～30 年 |

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

| 指 標 | 現 状 (平成 年度) | 目 標 (平成 年度) A | 実 績 (平成 年度) B | 実績B /目標A |
|------------------|-----------------|------------------|------------------|-------------|
| 排出量 | 事業系 総排出量 | t | t | t % |
| | 1 事業所当たりの排出量 | t | t | t % |
| | 生活系 総排出量 | t | t | t % |
| | 1 人当たりの排出量 | kg/人 | kg/人 | kg/人 % |
| 合 計 事業系生活系総排出量合計 | t | t | t | % |
| 再生利用量 | 直接資源化量 | t | t | t % |
| | 総資源化量 | t | t | t % |
| 熱回収量 | 熱回収量 (年間の発電電力量) | MWh | MWh | MWh |
| 最終処分量 | 埋立最終処分量 | t | t | t % |

※目標未達成の指標のみを記載

(生活排水処理)

| 指 標 | 現 状 (平成25年度) | 目 標 (令和元年度) A | 実 績 (令和元年度) B | 実績B /目標A |
|----------|--------------------|------------------|------------------|-------------|
| 総人口 | 8,927 | 9,000 | 8,167 | — |
| 公共下水道 | 汚水衛生処理人口 | | | % |
| | 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率 | % | % | % |
| 集落排水施設等 | 汚水衛生処理人口 | | | % |
| | 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率 | % | % | % |
| 合併処理浄化槽等 | 汚水衛生処理人口 | 4,060 (45.5%) | 3,638 (44.5%) | 82.3% |
| | 汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率 | | | — % |
| 未処理人口 | 汚水衛生未処理人口 | | | % |

※目標未達成の指標のみを記載

2 目標が達成できなかった要因

(生活排水処理)

合併処理浄化槽等の汚水衛生処理率の減少について、対象人口の減少（目標9,000人に対して実績8,167人）に加え、合併処理浄化槽の使用者が公共下水道に切り替えたことで、目標値ほど数値が伸びなかった（未処理人口は目標達成）。

(浄化槽設置整備事業)

下水道事業計画区域の拡大に伴い、対象となる区域（特定環境保全公共下水道全体計画区域内で下水道事業計画区域を除く区域）が縮小となったため、後半に設置基数が伸びなかった。

(浄化槽市町村整備推進事業)

浄化槽の維持管理に力を入れるとともに、浄化槽整備区域の世帯に対して広報周知やイベント参加等を行い、合併処理浄化槽への転換を促したが、終盤では対象世帯の様々な弊害に対応できなかったことに加え、職員の人員不足等もあり転換が進まなかった。

●転換への弊害

- ・設置スペースがない
- ・高齢者世帯等において、次に住む世帯がない
- ・実使用人数と設置する浄化槽の人槽との差（使用料が高い）
- ・設置工事費の負担が大きい

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和5年度 まで

- ・ホームページや広報において、定期的に事業の周知を行う
- ・くみ取り便槽や単独処理浄化槽の使用世帯に対し、事業等の資料を送付または戸別訪問による事業の説明を行う
- ・町の条例や規則の見直しを行い、転換への弊害に対して柔軟に対応する（国や県の助成金の活用を含む）

(都道府県知事の所見)

人口減少や高齢化により転換が困難となる状況は今後も続くと考えられるため、上記方策により一層の転換を促す必要がある。
共同浄化槽整備への補助等の新しい制度ができたので、その活用も検討されたい。
引き続き合併処理浄化槽への転換を推進していただくようお願いしたい。